

5月17日(火)まで
「民楽湖東焼の彩り—絵付師自然齋—」
湖東焼は、江戸時代後期に彦根で産声を上げたやきものです。本展では、湖東焼の窯から素地を仕入れ、自宅に絵付を行った自然齋の作品を紹介します。赤や金などの鮮やかな色で表わされた絵付の魅力をご覧ください。

5月20日(金)~6月21日(火)
「琵琶湖文化館所蔵の名品—彦根ゆかりの書画とやきもの—」
県内公立博物館のさきがけとして半世紀以上の歴史を誇る滋賀県立琵琶湖文化館の収蔵品から、彦根ゆかりの書画や湖東焼などの名品の数々を紹介します。

長春孔雀図 張月樵筆(ちょうしゅうへんくじゃくず ちょうげっしょうひつ)
(滋賀県立琵琶湖文化館蔵)

ギャラリートーク
5月21日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30
※事前申込:不要 場所:展示室1

観覧料が必要

— 常設展示の名品 —
常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

6月20日(月)まで 百華賦 森川許六筆

梅・桜にはじまる三十余种の花をおもに女性に例えた戯文(ぎぶん)に、軽快で洒脱(しゃだつ)な画を添えた巻物。森川許六(1656~1715)は彦根藩士。松尾芭蕉(まつおばしろう)の代表的な弟子のひとり、俳人として活躍する一方で、画をよく描いています。

5月18日(水)~同19日(木)は、展示替えのため一部を閉室します。

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)
インターネットでも購入いただけます。 <http://bunpla.jp/>

7月12日(火) 13:30/16:10 グランドホール
しまじろうコンサート
「たいようのしまのカーニバル」
全国の子どもたちに「元気」「勇気」「優しい心」などのメッセージを発信し続けてきたしまじろうコンサート。心に響く物語とともに、お姉さんやしまじろうたちと一緒に歌ったり踊ったりと、はじめてのお子さまでも親子でお楽しみいただける参加型コンサートをお届けします。

【チケットセンター発売5月21日(土)9:00】
ひこね市文化プラザ特別前売価格 2,280円
当日 2,400円

【友の会発売5月14日(土)9:00】
ひこね市文化プラザ特別前売価格 2,280円
※3歳以上有料。3歳未満は保護者1人につき子ども1人まで路上無料(お席が必要な場合は有料)。
※託児サービスがあります。

【各公演 発売初日の予約の取り扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

ひこね市文化プラザ 友の会会員募集中! 詳しくは☎26-8601へ
ひこね市文化プラザ サポーターズ(運営ボランティア) 募集中!

10月15日(土) 18:00 グランドホール
鼓童 ワン・アース・ツアー 2016 ~螺旋~
6月にみずほ文化センターで公演を行う鼓童が10月にグラウンドホールにやってきます! 鼓童のメンバーで織り成す、迫力満点の和太鼓の音色をお楽しみください。

【6月4日(土)9:00発売】
一般 5,500円
高齢者・障害者・学生 5,200円

【5月28日(土)9:00発売】
友の会 5,000円
※未就学児は入場いただけません。
※託児サービスがあります。

好評発売中
6月8日(水) 14:30 みずほ文化センター
鼓童 和太鼓コンサート in みずほ文化センター
一般 2,200円、ペア(2枚1組) 4,000円
高齢者・障害者・学生 2,000円、友の会 1,800円
※ペア券はひこね市文化プラザのみでの取り扱いとなります。
※未就学児は入場いただけません。
※託児サービスがあります。

◎表記のチケット価格は、すべて税込価格です。
◎高齢者は65歳以上です。学生、高齢者、障害者のチケットはひこね市文化プラザチケットセンター窓口のみの販売となります。
◎託児は、子ども1人1,000円です。公演の10日前までにお申し込みください。

5月の休館日 2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)、30日(月)

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ

直弼を支えたブレイン 中川禄郎

彦根藩井伊家13代当主・井伊直弼は、彦根藩主、そして幕府の老として、激動の幕末を駆け抜けました。今回は、そんな直弼を支えた一人の儒学者を紹介します。

中川禄郎(号 漁村)は、寛政8年(1796)、彦根藩の国学者・小原君雄の長男として生まれました。禄郎は幼い頃から病身であったため、祖父の中川嘉蔵の養子となります。

養子先の中川家は、もとは藩の勘定役を代々勤めていましたが、祖父嘉蔵は流浪を経て善照寺(現・彦根市薩摩町)に奉公していました。禄郎も祖父同様、善照寺に奉公していましたが、この時期、梁川星巖(漢詩人・頼山陽(儒学者・漢詩人)らと親交を持ち、朱子学を初めとした学問を学ぶとともに、諸国を遊学していたとされています。

井伊直亮(井伊家12代当主)が藩主を勤めていた天保13年(1842)、禄郎は彦根藩に召し出され、儒者役を命じられました。この時禄郎は47才でした。召し出しの理由は、禄郎は学業の志が厚く、特に小原君雄の

子であるというものでした。小原は藩校で国学を教えており、禄郎自身の能力に加え、父の業績も重視されての召し出しでした。

藩士となった禄郎は、直弼へさまざまな献言を行っていました。例えば、弘化4年(1847)、禄郎は世継(次期藩主)時代の直弼に対し「莠蕘之言」と題した著作を献上し、士気が衰えていた藩校の改革を提言しています。その後直弼は、藩主就任後の嘉永4年(1851)11月から藩校改革に着手しています。また嘉永元年(1854)12月、禄郎は、諫言

(目上の人に忠告すること)を行った事例を集めた自著「三諫録」を直弼に献上しています。この中では、野見宿禰など古代の伝説上の人物から始まり、毛利元就、立花道雪などの戦国武将、江戸時代の大名やその家臣、そして井伊家初代の直政、二代直孝、彦根藩士にまつわる例も収録されています。

彦根藩士の事例では、井伊直興(井伊家4代当主) 国入りの際、直興から重臣の任とは何かと問われた中野助大夫は、道理に背くような君主はその座から退かせ、新しい君主を立てるのが任であると答えた話が収録されています。

「三諫録」執筆には、古来より広く諫言が行われ、彦根藩でも行われていたことを明らかにすることで、諫言の正当性を示す狙いがあったものと思われる。また、直亮治世末期の彦根藩は、諫言を必要とするような閉塞感に満ちたものであったと推測されます。

安政元年(1854)12月2日、禄郎は病により59才で亡くなります。

写真の資料は、彦根城博物館常設展示「古文書の世界」で6月20日(月)まで展示します。(期間中無休)

藩士として勤めていた期間は12年間と短く、また直弼が老に就任(安政5年)するより前に亡くなってしまっていますが、世継時代から直弼の頭脳として活躍し、直弼に大きな影響を与えた禄郎の功績は重要です。井伊直弼の歩みとともに、今後も更なる研究が必要と思われます。(彦根城博物館学芸員 青木俊郎)

▲三諫録

▲中川禄郎画像